



Global30 Project Follow-up FY 2012

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 2012年度フォローアップ

構想責任者 : 赤松 明彦

役職 : 理事・副学長(学生・図書館担当)

所属機関 : 京都大学



目次

1. 本事業の成果

① 特筆すべき成果と波及効果	3
② 英語コースの学生からの評価	5
③ 留学生の受入	9
④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施	10
⑤ 大学間交流協定等に基づく交換留学の拡大	12
⑥ 教育体制の充実	14

2. 取組状況

① 英語による授業のみで学位が取得できるコース	16
② 質の高い教育の提供と教育の質向上への取組	18
③ 留学生受入のための環境整備	19
④ 拠点大学の国際化とネットワーク形成	20
⑤ 海外・産業界への情報発信やネットワークの形成	23

3. 経費の使用状況

① 予算額の推移と使用実績	24
---------------	----

4. 今後の課題と事業終了後の見通し

① 今後の課題と展望、②事業終了後(2014～)の見通し	25
------------------------------	----



1. 本事業の成果

① 特筆すべき成果と波及効果1

成果

■ 留学生と日本人学生の共学

- 学部の英語コースを留学生と日本人学生の共学としたことにより、双方が互いに刺激し合いながら学習する、よい環境が出来上がっている。

■ 留学生の着実な増加

- 各種のグローバル30事業による活動の効果により、アジア以外の地域でも留学希望者が増加し、留学生数が着実に増加している。
 - ✓ 受験や履修に必要な情報の英文化が促進された。
 - ✓ これまでより広い範囲で広報活動を行う機会が増えた。
 - ✓ あらかじめ日本語を習得しなくても、入学できるコースができた。

■ 教材の開発

- 英語を母国語としない学生向けに、新たに英語で教科書を開発した。

■ 教員の国際性の向上

- 英語による授業を担当することで、若手教員の国際性の向上に役立っている。
- 部局ごと、全学規模で、様々なFD活動やワークショップを行ったことにより、学内でのFD活動のモデルケースになっている。

波及効果

■ 日本人学生への波及効果

英語による授業の増加

- 大学院で、英語による授業の開講数が増加している。
- 英語コースを履修する日本人学生が増加している。
- 外国人教員が、大学院生に対する英語指導を行った結果、英語での発表能力が格段に向上した。

留学生との交流によるコミュニケーション能力の向上

- 共学クラスとしたことにより、留学生と日本人学生が、クラスメイトとして日常的に交流している。
- 大学院生が、英語での研究発表や討論に積極的になってきている。
- 英語のディベートを取り入れるなど、授業の進め方に変化が生じている。
- 日本人学生と留学生の双方が参加する、英語でのワークショップを定期的で開催したことにより、英語で議論する能力が向上し、学生が主体となって自主的に英語によるシンポジウムを企画・開催している。

日本人学生への刺激

- 留学生との共学クラスでは、留学生が真剣に勉強する姿が日本人学生への良い刺激になっている。



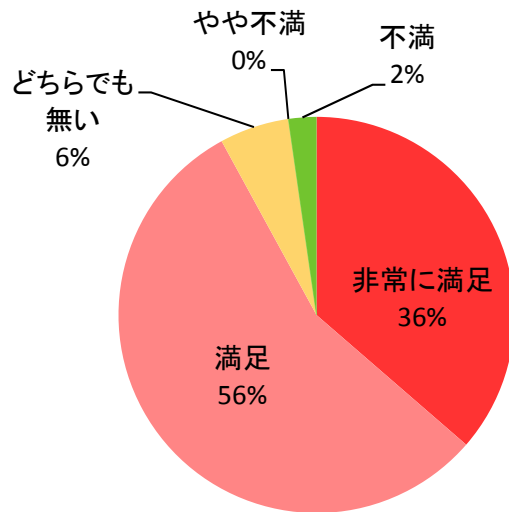
▲ 霊長類研究所:学生主導でのワークショップ

1. 本事業の成果

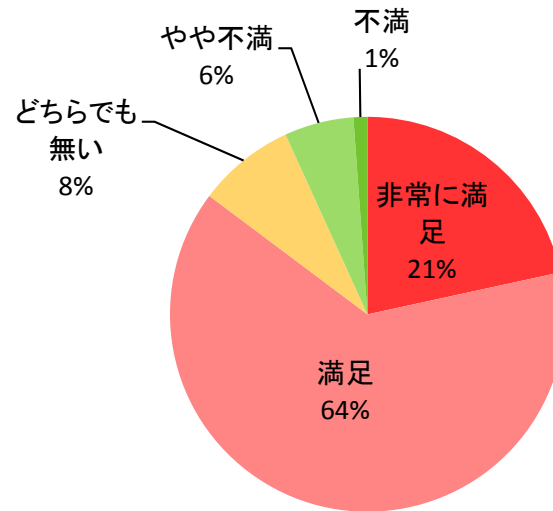
② 英語コースの学生からの評価 外国人留学生からの評価

グローバル30の留学生に聞きました。

1. 日本留学への全体的な印象は？

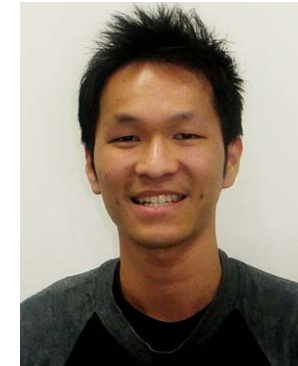


2. 教育の内容・質に満足していますか？



Q. 日本に来た理由は？

- 京都大学の教育のレベルが高いから。
- 奨学金がもらえた事と、日本の教育の質が良いから。
- 日本や、日本の文化が好きだから。
- 研究の自由があるから。
- 日本で研究環境やネットワーク広げたいと思ったから。



Lee Engming さん
(マレーシア)

平成23年度
工学研究科
環境基盤マネジメント
国際コース入学

世界でトップクラスの大学で才能のある、素晴らしい人たちに囲まれながら学ぶ事ができて、本当に嬉しいです。

毎日、学業の面でも刺激的な環境なので、皆が研究に打ち込む事が出来ます。

ラボでの研究はとても忙しいですが、学生たちは勉強ばかりではなく、キャンパス内でバスケットをしたりして楽しむなど、リラックスすることも忘れていません。

キャンパス内では様々な国や異なるバックグラウンドをもった学生たちに会う事が出来るので、それも京都大学の魅力の一つだと思います。

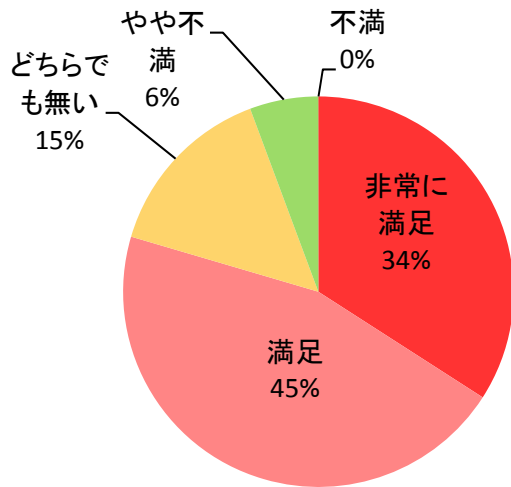


1. 本事業の成果

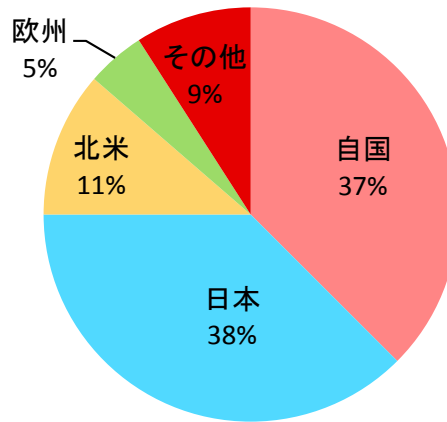
② 英語コースの学生からの評価 外国人留学生からの評価

グローバル30の留学生に聞きました。

3. 教員の英語力は十分ですか？



4. 卒業後はどこで仕事をしたいですか？



Q. 卒業後の希望を教えてください。

- 奨学金がもらえたら、このまま博士課程へ進学したい。
- できれば日本で就職して、その後、母国へ戻りたい。
- 日本で就職して、経験を積みたい。将来は日本と母国の交流の懸け橋になりたいと考えている。
- 卒業後は帰国する予定だが、京都大学と繋がりを持っていたい。
- ポスドクとして日本に、できれば京都大学に残りたい。



Derek LIN さん
(台湾)

平成23年度

経営管理大学院
国際プロジェクトマネジメント
コース入学

この国際プロジェクトマネジメントコースに入るまで、6年間ソフトウェア産業界で働いたのですが、今までの知識では足りないと思い、京都大学の国際プロジェクトマネジメントコースで学びたいと思いました。このコースで学んで、知識を高めることができると確信しています。

京都大学を卒業後は、日本で管理職を探そうと思っています。今までの経験を活かして自分の価値や、可能性を見いだせるような仕事をしたいと思っています。

これからも京都での生活や、勉強を通して得られる経験を楽しみたいと思っています。

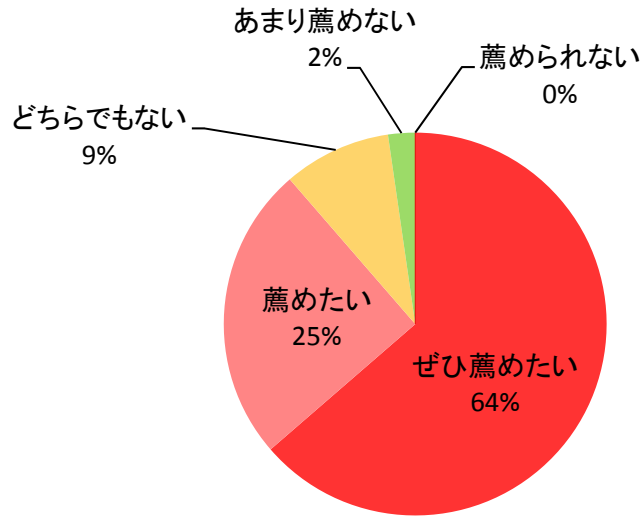


1. 本事業の成果

② 英語コースの学生からの評価 外国人留学生からの評価

グローバル30の留学生に聞きました。

5. 自国の学生に京都大学を薦めたいですか？



Q. 研究環境で改善点はありますか

- 研究環境は素晴らしいと思います。先生もとても熱心に指導して下さい。
- 京都大学の研究環境は概ね良いと思います。日本人の学生も英語でもっとコミュニケーションが取ればより良いと思う。
- 生徒と先生、また他のラボとの交流がもっと増えるとより良いと思う。

何か生活面でのサポートは必要ですか？

- 特に問題はありません。大学のサポートはかなり得られていて、ありがたい。
- 学内の情報発信を充実・工夫してほしい。
- 寮が近いと嬉しい。
- 奨学金が得られているので、特にサポートは必要ではない。

その他学生の声

- 私は日本語は上手くないので、G30のコースが無かったら京都大学で勉強する事が出来なかつただろうと思う。
- 日本人の学生や研究者ともっと積極的に交流を持ちたい。
- 研修者の中でも余り英語が得意でない研究者がおり、コミュニケーションが取りにくい。
- 英語だけでなく、他言語のセミナーやクラスが開かれるようになると、より、京都大学の国際化に役立つと思う。



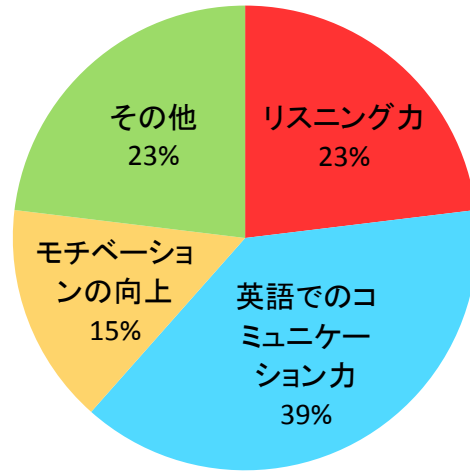
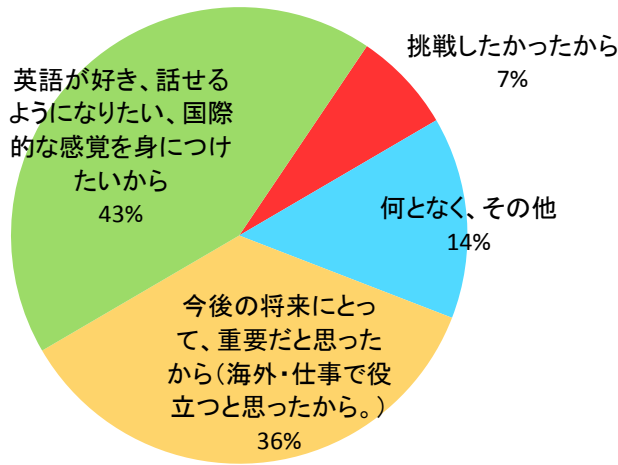
1. 本事業の成果

② 英語コースの学生からの評価 (工学部:「国際コース」日本人学生からの評価)

工学部「国際コース」に在籍する日本人学生に聞きました。

Q 1. 「国際コース」を選んだ理由は？

Q2. 入学時と比べて、最も向上したと思われる点は？



Q. 国際コースを選んだ理由は？

- 英語で授業を受けられるから。挑戦してみたかったから
- 英語能力を高め、国際人の考え方を身につけるため
- 英語で専門を学んでおけば海外で働く時に役立つと思ったから
- これからの時代を見据えて

Q2. 入学時と比べて、最も向上したと思われる点は？

- 自己成長に関する意欲の向上
- 英語で授業を受ける際の現実的な壁を感じた。
- 人生における問題力解決能力の向上
- 英語でのコミュニケーション及び主張
- 英語を使ってどうにかコミュニケーションをしようとする姿勢が身に付いた。

学生インタビュー

清水裕真さん
(日本)

平成23年度入学
工学部
地球工学科国際コース



この国際コースに入学して、語学力の向上はもちろん、新しい価値観や考え方を得ることができ、明確な目標をもって勉学に励むことができるようになりました。

コースの授業は全てが英語。元々英語は苦手だったということもあり、初めのうちは授業についていけず何一つ理解できないまま授業が終わってしまった、などということも多々ありました。しかし先生方はどんな稚拙な質問にも丁寧に対応して下さいました。今では英語講義にもだいぶ慣れ、授業だけでもなんとかついていけるようになりました。

そして何より素晴らしいのはクラス全体の雰囲気だと思います。留学生たちと共に学ぶことに加え、日本人学生も海外に興味を持つ積極的な人たちが入学してきます。彼らと共に学ぶことは、自分の世界を広げ未来へのきっかけを掴むことに大いに役立ちました。

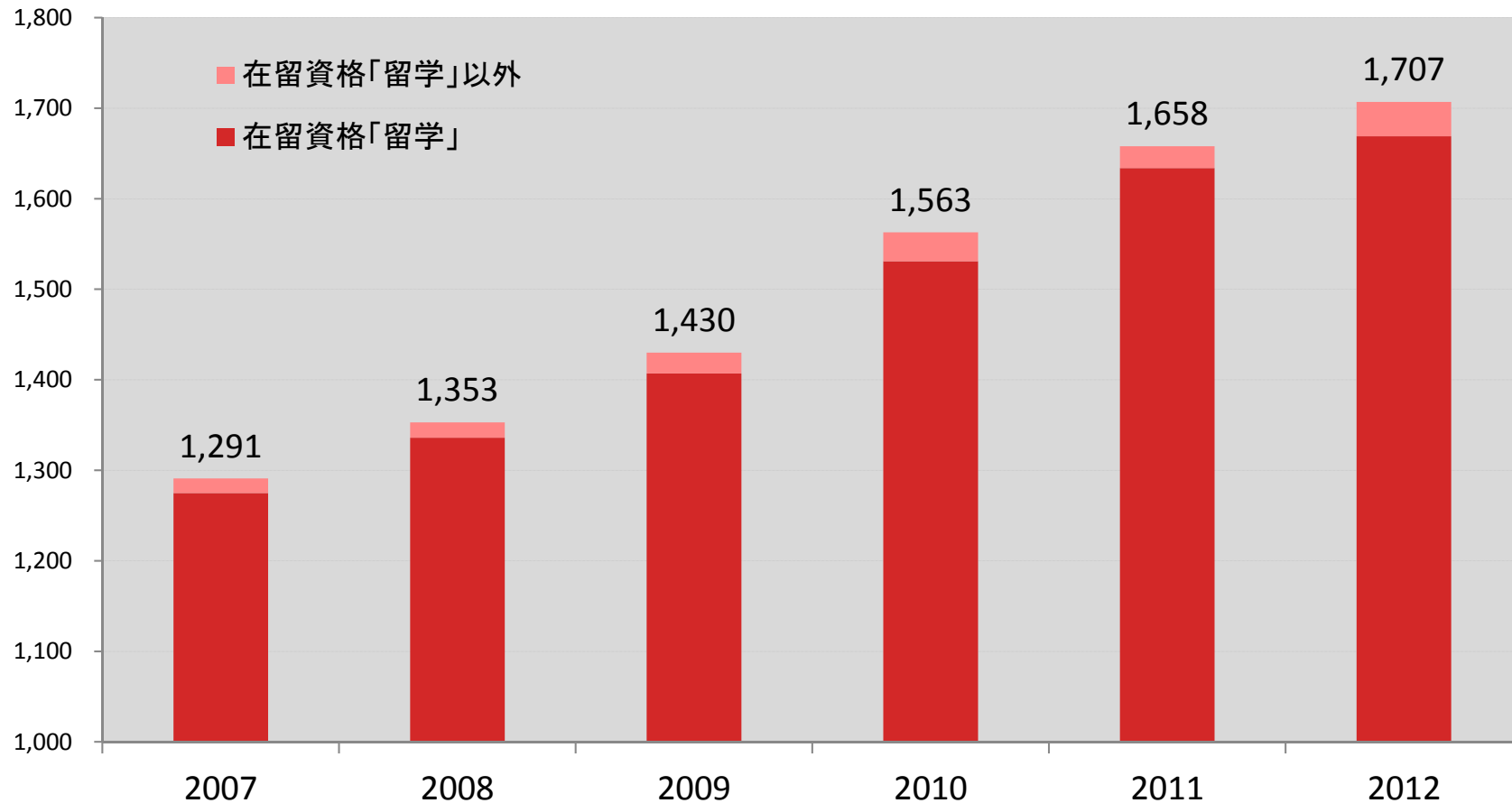
入学時まで夢も持たず、ただ何となく過ごしてきた私に変わるきっかけをくれたのは間違いなくこの国際コースです。これから先、私はここで学んだ知識と経験を基に、結果的に世界に有益になる研究をする研究者になりたいと思います。



1. 本事業の成果

③ 留学生の受入

- ・ G30英語コースが開設された2010、2011年度における留学生数は、例年に比べ大きく上昇している。
- ・ 2012年もさらに留学生は増加した。



注1) 各年度、5/1在籍者数を計上。



1. 本事業の成果

④ 海外大学との連携プログラムの新たな実施1

海外大学との連携プログラムの新たな実施

■世界展開力事業による学生交流プログラムやダブルディグリープログラムの開発

- ・ サマープログラム(修士課程)を実施(2012.9)。学生15名を受け入れ/学生15名、教員1名を派遣。

■日独6大学間コンソーシアムHeKKSaGOnによる取組

- ・ サマープログラム(博士課程)を実施(2012.9)。学生5名と教員3名(講師)が参加。
- ・ The Baden-Württemberg-STIPENDIUM plus' program: 博士学生短期派遣プログラム(9ヶ月以内)。2012年度1名を5ヶ月派遣。

海外大学との連携プログラムの新たな実施

■ 学生交流協定校との連携による超短期派遣プログラムの実施

- カリフォルニア大学 デービス校での実習型・夏季短期留学プログラム (参加学生数 2011年度 22名、2012年度 34名)
- オーストラリア英語研修プログラムを開催 (参加学生2011年度 62名、2012年度 59名)
- シドニー大学:「文系・異文化英語研修プログラム」
- ニューサウスウェールズ大学:「理系・サイエンス英語研修プログラム」



▲カリフォルニア大学 デービス校での実習型・夏季短期留学プログラムの様子



▲ 西安交通大学の学生と共に

• 大学間学生交流協定による本学学生向けの学費免除型「東アジア超短期留学プログラム」の実施

ー 平成23年度:

香港中文大学(英語)サマースクール、香港中文大学(中国語)サマースクール、韓国・慶北大学サマースクール、中国・西安交通大学サマースクール、台湾・国立清華大学スプリングスクール、中国・浙江大学スプリングスクールなど6つのプログラムを実施。(計68名の学生を派遣)



1. 本事業の成果

⑤ 大学間交流協定に基づく交換留学の拡大1

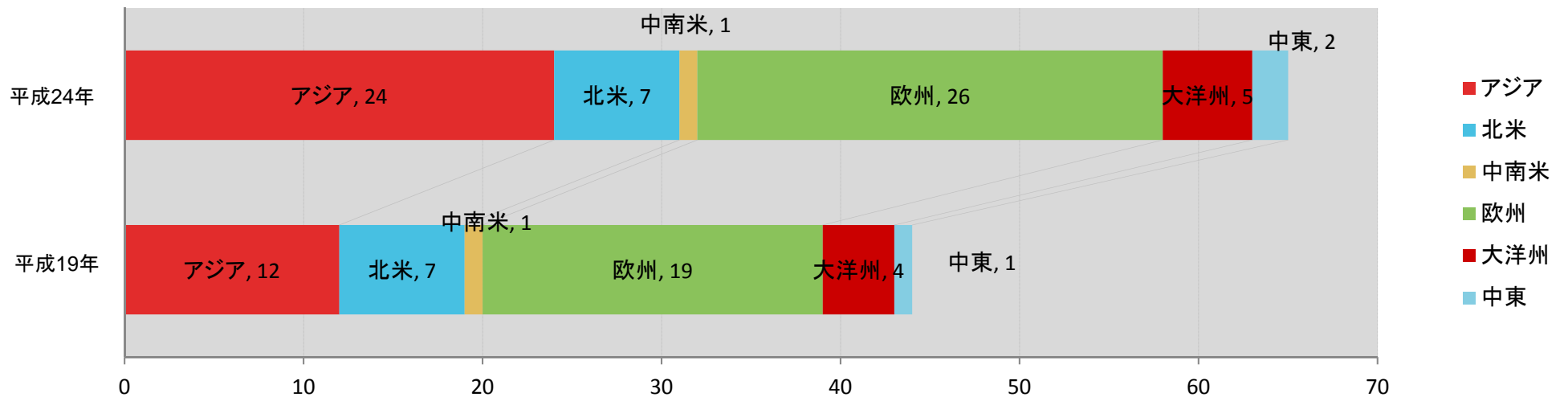
大学間交流協定に基づく交換留学の拡大

協定の締結数

大学間学生交流協定は、平成19年(5月1日現在)で41大学・3大学群であったものが、平成24年(5月1日現在)には63大学・2大学群と大幅に増加した。これに伴い、交換留学の受入・派遣実績は着実に伸びている。

大学間 学生交流協定の締結数

(各5月1日現在)



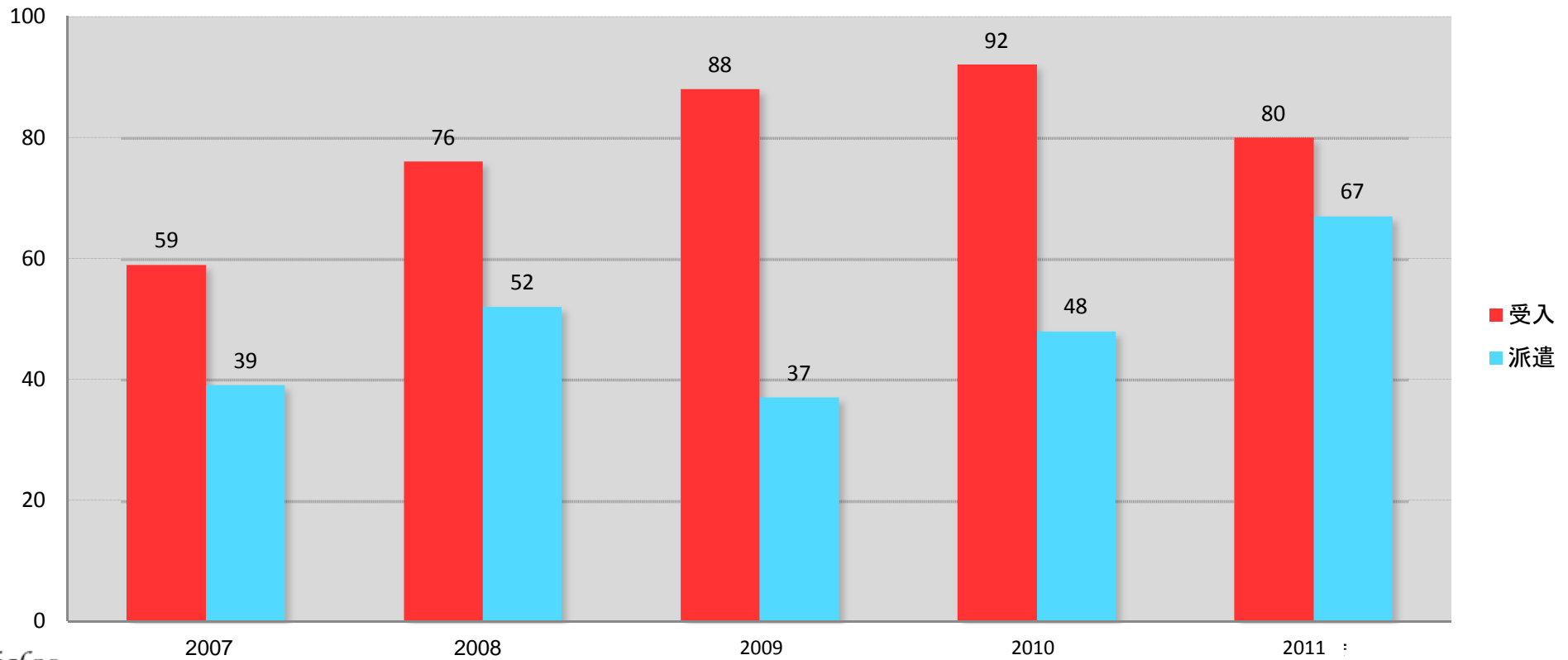


1. 本事業の成果

⑤ 大学間交流協定に基づく交換留学の拡大2

- ・ 2011年度は、東日本大震災の影響により、交換留学の受入実績が一時的に減少した。なお、派遣実績は、これに関係なくここ数年着実に伸びている。
- ・ 平成24年度においても順次、欧米諸国をはじめ世界の主要大学との学生交流協定の締結交渉を進めている。

大学間学生交流協定に基づく交換留学実績





1. 本事業の成果

⑥ 教育体制の充実

教育体制の充実

■ 外国人教員の雇用

- ・ 英語コースの授業を開講するため、外国人教員の雇用を推進し、平成23年度の実績では構想時の目標を上回っている。
- ・ 補助金で雇用した者の事業終了後の措置については、必要な人員の確保について、学内で対応の検討を行っている。

事項	計画時	平成21年度末 (実績)	平成22年度末 (実績)	平成23年度末 (実績)	平成24年度末 (実績)	平成25年度末 (実績)	平成32年度末 (実績)
外国人教員数(C)	160	167	234	242	-	-	-
全教員数(D)	3,186	3,117	3,384	3,458	-	-	-
外国人教員比率 (C/D)	5.0%	5.4%	6.9%	7.0%	-	-	-

事項	計画時	平成21年度 [構想時の目標]	平成22年度 [構想時の目標]	平成23年度 [構想時の目標]	平成24年度 [構想時の目標]	平成25年度 [構想時の目標]	平成32年度 [構想時の目標]
外国人教員数(C)	160	-	170	-	-	220	320
全教員数(D)	3,186	-	3,200	-	-	3,200	3,200
外国人教員比率 (C/D)	5.0%	-	5.3%	-	-	-	10%

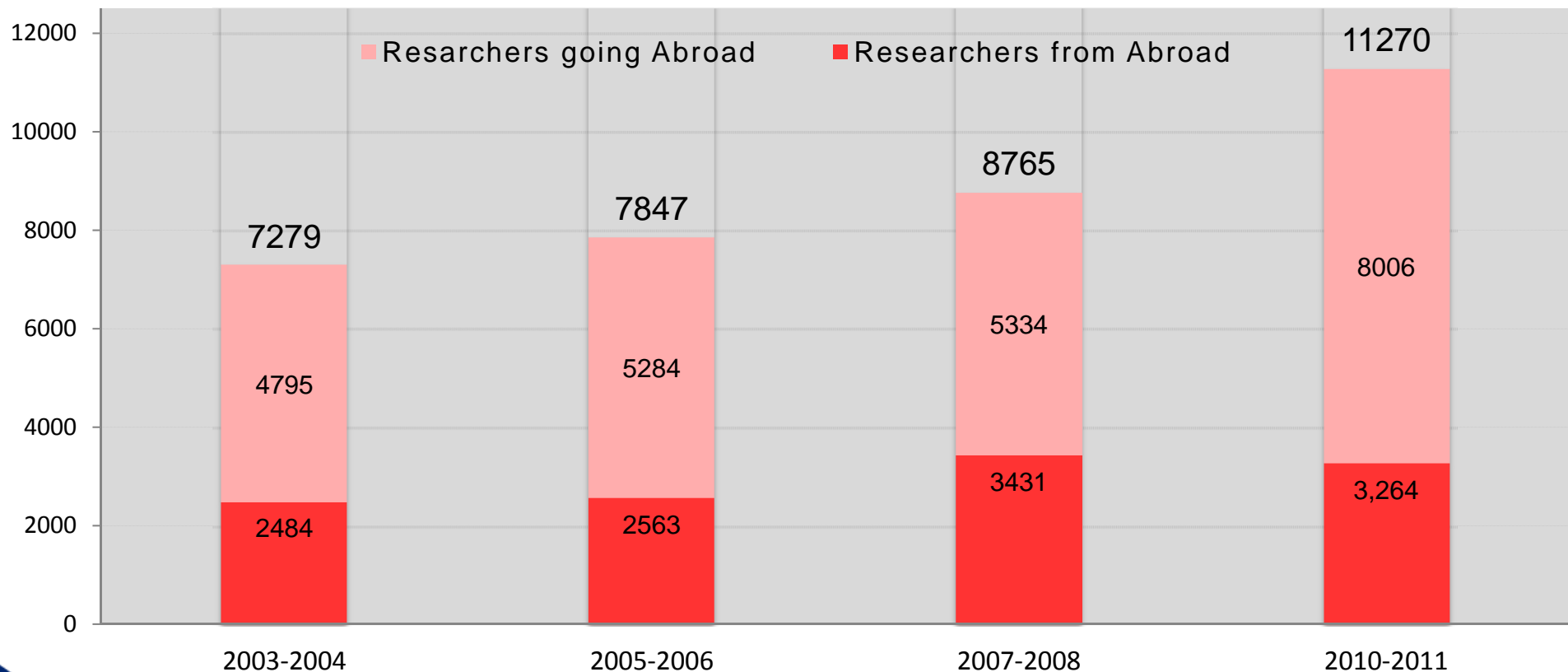


1. 本事業の成果

⑥ 教育体制の充実 日本人教員の海外における教育研究活動への参加促進

研究者交流の状況

海外へ派遣する研究者は年々伸びを見せているが、海外からの研究者受入が僅かに減少に転じている。
組織としての研究者交流をさらに促進させるため、海外提携大学と全学レベルの大規模シンポジウム(「京都大学の日:ブリストル大学」など)を順次開催する予定である。



(英文概要 Facts and Figures)



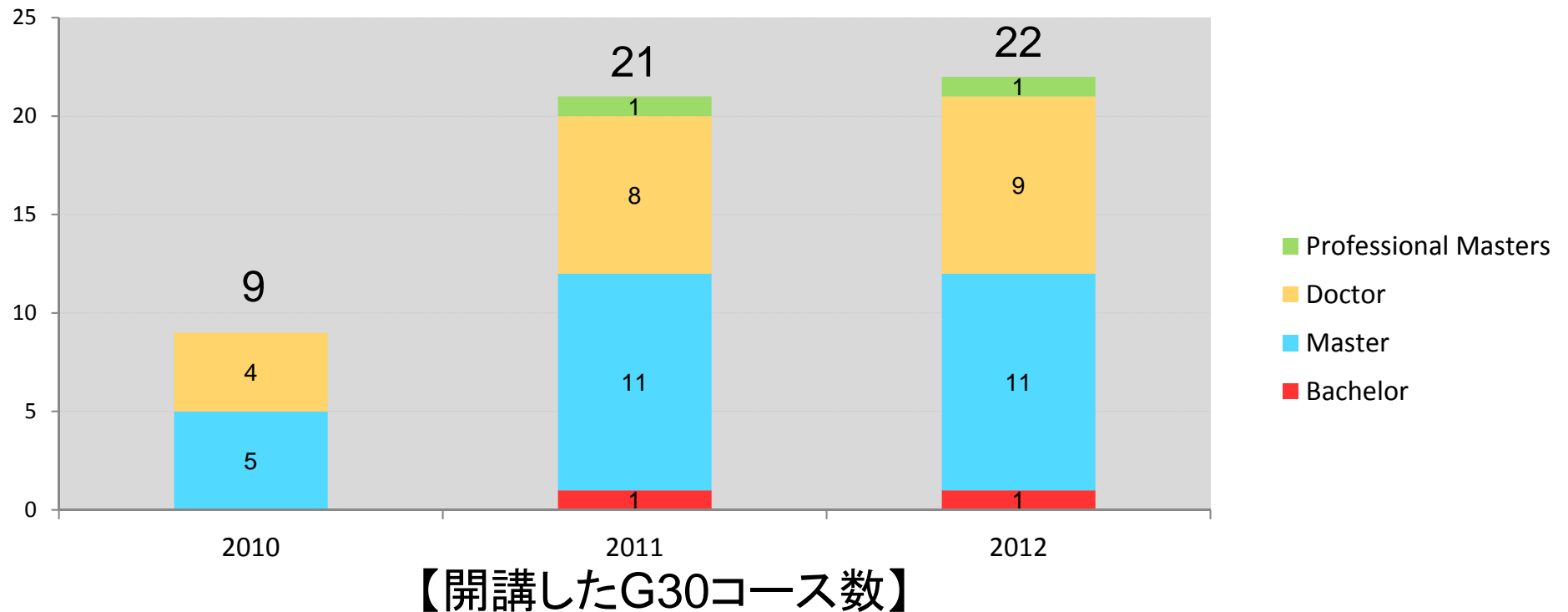


2. 取組状況

① 英語による授業のみで学位が取得できるコース1

英語コースの開設

- 2010年4月の農学研究科の修士・博士課程コース開講を皮切りに、この年に9コースが開講された。
- 2012年10月、エネルギー科学研究科の博士課程コースが開講し、本事業で計画した英語による学位コースが全て予定通り開講された。





2. 取組状況

① 英語による授業のみで学位が取得できるコース2

学生確保の状況

2012/9 現在、単位:人

英語コースの名称	研究科等の名称	開設年月日	学位	平成22年4月1日現在			平成22年10月1日現在			平成23年4月1日現在			平成23年10月1日現在			平成24年4月1日現在		
				在籍学生数(人)			在籍学生数(人)			在籍学生数(人)			在籍学生数(人)			在籍学生数(人)		
					うち日本人	うち留学生		うち日本人	うち留学生		うち日本人	うち留学生		うち日本人	うち留学生		うち日本人	うち留学生
地球工学科国際コース	工学部	2011年4月	B	-	-	-	-	-	-	14	10	4	14	10	4	27	16	11
環境基盤マネジメント国際コース	工学研究科	2011年4月	M	-	-	-	-	-	-	3	0	3	3	0	3	7	0	7
都市地域開発国際コース		2011年4月	M	-	-	-	-	-	-	2	0	2	2	0	2	8	0	8
農学特別コース	農学研究科	2010年4月	M	3	0	3	8	0	8	15	0	15	21	0	21	22	0	22
		2010年4月	D	4	0	4	15	0	15	19	0	19	22	0	22	26	0	26
国際エネルギー科学コース	エネルギー科学研究科	2010年10月	M	-	-	-	4	0	4	6	0	6	9	0	9	8	0	8
		2012年4月	D	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
社会情報学国際コース	情報学研究科	2010年10月	M	-	-	-	2	0	2	9	2	7	10	2	8	15	3	12
		2010年10月	D	-	-	-	0	0	0	2	0	2	3	0	3	4	0	4
2010年10月		M	-	-	-	2	0	2	13	2	11	14	2	12	30	7	23	
2010年10月		D	-	-	-	0	0	0	4	0	4	4	0	4	6	0	6	
通信情報システム国際コース		2010年10月	M	-	-	-	1	0	1	7	4	3	10	4	6	13	4	9
		2010年10月	D	-	-	-	0	0	0	1	0	1	1	0	1	2	0	2
Global frontier in life science	医学研究科	2011年4月	M	-	-	-	-	-	-	1	0	1	1	0	1	4	0	4
	生命科学研究科	2011年10月	M	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	0	3	5	0	5
	生命科学研究科薬学研究科、医学研究科	2011年4月	D	-	-	-	-	-	-	25	0	25	30	0	30	47	0	47
国際環境マネジメントコース	地球環境学舎	2011年4月	M	-	-	-	-	-	-	11	0	11	11	0	11	14	0	14
		2010年10月	D	-	-	-	4	0	4	8	0	8	8	0	8	11	0	11
国際霊長類学・野生動物コース	理学研究科(霊長類研究所)	2011年4月	M	-	-	-	-	-	-	3	0	3	4	0	4	4	0	4
		2011年4月	D	-	-	-	-	-	-	0	0	0	1	0	1	1	0	1
国際プロジェクトマネジメントコース)	経営管理大学院	2011年4月	P	-	-	-	-	-	-	7	0	7	7	0	7	18	1	17

B: 学士、M: 修士、D: 博士





2. 取組状況

②質の高い教育の提供と教育の質向上への取組

質の高い教育の提供と教育の質向上への取組

■FD活動

- 質の高い授業を提供するため、世界各地の大学から国際化を担当している教員を招聘し、留学生の受入れや多様な国籍の学生に対する授業法などについて、情報収集・意見交換を行っている。
- 英語講義をビデオアーカイブ化し、iPodで視聴できるようにして、FDに使用している。
- 外国人教員による模範授業の開催
- 外国人教員による英語講義の授業評価を実施

■カリキュラム編成

- 通常の科目とほぼ同一のカリキュラム構成としているのに加え、その専門分野における国際的な視点を養う科目を、新規に開講している。
- 基礎科目、専門科目、実務科目、発展科目を段階的に履修することで、高度な専門性が養われるよう配慮している。

■教育の質の確保・向上

- 新たに雇用した外国人教員だけでなく、通常科目を担当する専任教員も英語による授業を担当する体制を構築している。
- 学期ごとに、学生による授業アンケートを行い、結果を教員にフィードバックしている。

留学生受入のための環境整備

■ 留学生に対する支援（就学、生活、経済、就職等）

- ・ 海外で入試を受ける志願者の利便性を向上させるため、検定料の納入がクレジットカードで行える仕組みを導入
- ・ 学部のG30英語コース入学者に対して、入学料と同額の奨学金（282千円）を給付
- ・ 私費留学生として入学したG30英語コース入学者に対して、学部生では初年次と2年次、大学院生では初年次の授業料免除を実施
- ・ 新たな国際交流宿舎として、国際交流会館みささぎ分館をJASSOより購入
- ・ 就職支援として、近隣の大学と共同で留学生の工場見学やジョブフェアを実施



▲ みささぎ国際交流会館

■ 日本語・日本文化の学習機会の提供

- ・ 国際交流センターが、初級から上級まで、レベル別の日本語授業を90コマ／週以上提供しているほか、ビジネス日本語の授業も開講している。



▲ 工場見学の様子



2. 取組状況

④ 拠点大学の国際化とネットワーク形成1

海外大学共同利用事務所の取組1

■ ベトナム人学生に対する日本留学情報の提供

- 日本留学に興味のある学生に対する留学説明会開催・参加
- 留学関連の本や資料などをベトナム語翻訳・編集・出版、ウェブページ公開

▼ 留学説明会の開催



▼ 日本の大学についての資料・情報検索環境を提供



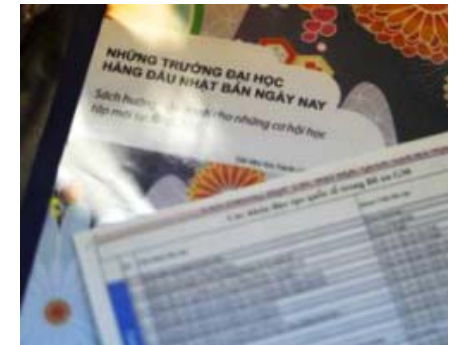
■ 日本の大学の留学生募集活動支援

- 日本の大学のベトナム人留学生募集活動支援（インタビュー実施など）
- 現地高校・大学訪問による広報活動、ベトナムの高校、大学へ訪問広報活動支援

▼ ワンストップサービス: 留学相談



▼ 日本の大学の情報をベトナム語に翻訳



ベトナム人学生の推移

2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
35人	36人	33人	48人	48人	47人

いずれも5/1現在



海外大学共同利用事務所の取組2

■ベトナムの教育機関との関係強化を図る取り組み

- G30日本セミナーの開催
ベトナム中央および地方教育行政機関・高校・大学関係者との連携強化
- 各地方の教育訓練局を訪問
日本留学に関する広報活動への協力依頼・理解促進
- VKCO運営委員会の開催
ベトナム国家大学ハノイと京都大学の関係者によるVKCO運営委員会をテレビ会議で年に2回程度開催



▲ G30日本教育セミナー 2012



▲ 大学や職業訓練学校などとの意見交換



▲ VKCO運営委員会遠隔会議

■ 事務体制の国際化

- ・ 留学生及び外国人教員のために学内文書及び有用な生活関連情報の英文化を実施、成果物をファイル3冊にまとめ、全学に配布した。
- ・ その成果物をCDで作成し、G30採択大学及び関西地区周辺の153大学に配布し、成果を共有した。



■ 評価の実施と改善

- ・ 中間評価結果における指摘事項等への対応状況
 - 中間評価結果において指摘された定員の充足率については、コースの広報活動を広範囲に実施したことにより、年々、上昇している。
- ・ 外部有識者等による評価の実施と改善
 - 学外諮問委員会を開催し、外部の有識者からの意見を聞いており、学部英語コースへの日本人入学者の獲得のため、地元の高校と連携することなどの指摘を受けた。指摘を踏まえ、今年度後半に、日本国内の高校への広報活動を予定している。



2. 取組状況

⑤ 海外・産業界への情報発信やネットワークの形成

産業界

グローバル30
産学連携フォーラム

グローバル人材育成推進会議

産学協働人材育成円卓会議

関西経済団体連合会

京都留学生等交流推進協議会

日本の大学

国際FDシンポジウム開催

海外学生派遣の危機管理ワークショップ

京都大学コンソーシアムへの授業公開

OCWによる産学連携講座の配信

海外大学

ブリストル大学でのB-K合同シンポジウム

海外大学国際担当者会議(UAW)

日独6大学学長会議

日越学長会議

世界への情報発信

- Kyoto University Research Activities
- G30ウェブサイト
- OCW



京都大学



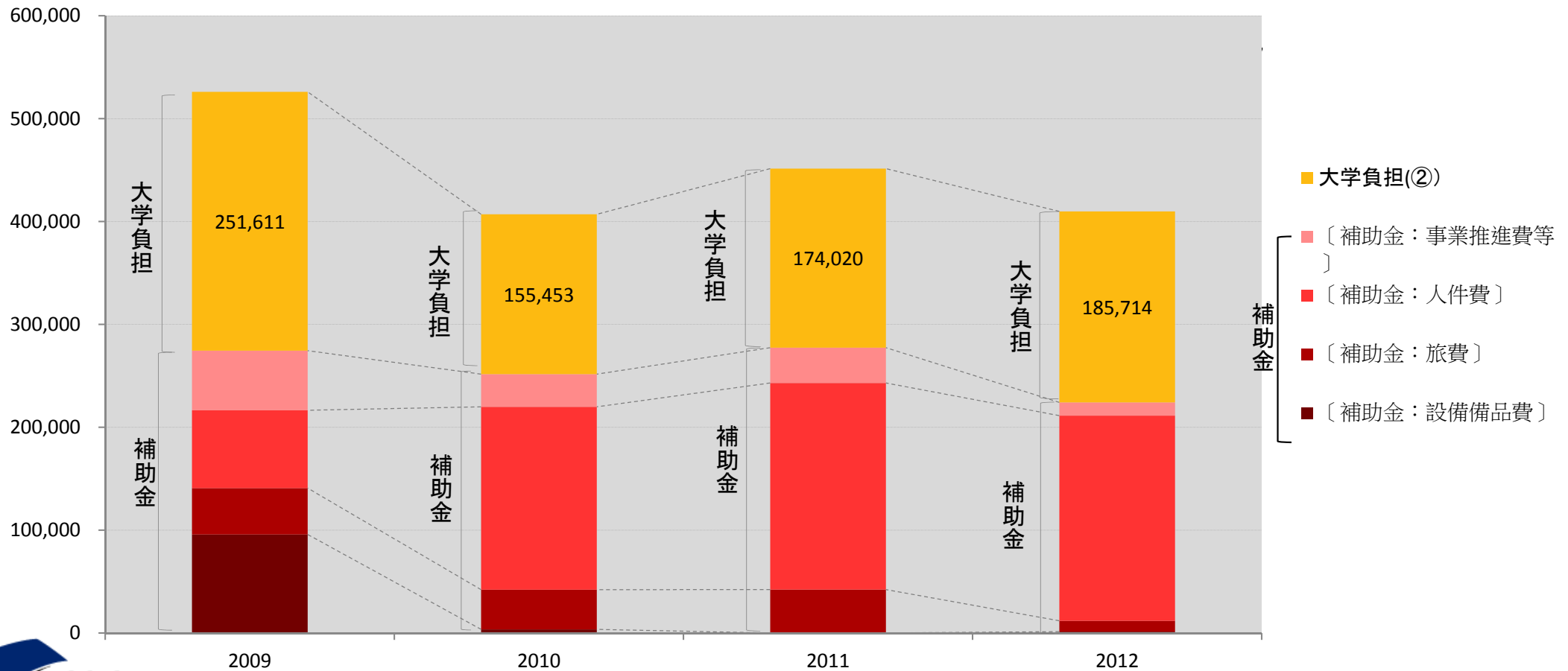


3. 経費の使用状況

① 予算額の推移と使用実績

予算額の推移と使用実績

・毎年度の業務維持のため、学内経費(大学負担額)に、英語コース担当教職員の雇用費、英語コースにかかるTA経費、学部入学者の修学支援金等を計上している。また英語コースの学生のための授業料免除枠を、通常の授業料減免とは別に措置している。





4. 今後の課題と事業終了後の見通し

- ① 今後の課題と展望
- ② 事業終了後(2014～)の見通し

① 今後の課題と展望

- ・ 任期付き教職員の処遇、コース継続のために必要な予算・人材の確保について、検討が必要
- ・ 補助金終了後の海外事務所の継続や、その役割について検討が必要

② 事業終了後(2014～)の見通し

■ 英語コースの拡充

- ・ コースとしては設立されないが、学部・大学院ともに、英語で行われる授業の拡充が見込まれる。

■ 留学生の受入促進

- ・ 海外での広報活動に加え、サマースクールの開講数が増加しており、志願者数の増加につながっていくものと予測している。

■ 補助金の終了に伴う代替財源の確保

- ・ 必要な予算や人材の確保について、学内で検討が行われている。